

社会とつながる スポーツ健康科学

大学院に
行くことの
メリットって？

**学位の取得は
給与で勝る！**



基本給が学部卒よりも10%UP
生涯年収にも差が付く！

大学院卒＞学部卒

生涯賃金：年収差は312万円！

内閣府経済社会総合研究所調べ(2014年)

Page **4**

SCHOLARSHIP



**研究成果を上げて
奨学金を獲得する！**

学会発表・論文投稿…
着実に研究成果を上げて
奨学金をゲットする！

Page **5-6**

SUPERVISOR



**あなたの輝く未来を
サポートする！**

高い研究力と指導力を持つ
教授陣が
科学の世界へと誘う！

Page **3**

DEVELOPMENT



**世界で勝負する
英知を養う！**

最先端の科学に触れ
立命館大学でしか身につかない
知識とスキルを手に入れる！

Page **1-2**

RESEARCH



**研究でビジネスや
社会とつながる！**

企業・行政などとの
共同研究や研究成果で
社会に貢献する！

大学院は
研究だけではない！

自分の可能性と成長を広げることができる！

Research 研究でビジネスや社会とつながる！

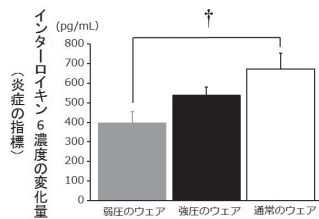
アスリートのための“最適化”
に力を注ぐ
スポーツ用品メーカーとの共同開発

**疲労軽減につながる
コンプレッションウェアの
開発**

後藤 一成 教授 | 専門分野：
トレーニング科学



アスリートにとって、運動時における全身の疲労や筋肉の炎症は、パフォーマンスに直接関係する深刻な問題です。このようなアスリートが抱える不安を少しでも解消するため、さまざまな企業がコンプレッションウェアの開発を進めています。コンプレッションウェアは、身体に最適な着圧を施すことによって、筋肉の無駄な動きを抑えるだけでなく、血流を促進し、疲労軽減や筋肉の炎症反応を抑制する機能性スポーツウェアのことです。限界に挑戦するアスリートやスポーツを愛する全ての人の熱き想いに応えようとする株式会社デサントは、最先端技術と機能を集結させた機能性ウェアを開発するため、2014年から我々の研究室とタッグを組み始めました。数種類に渡るコンプレッションウェアの試作品を準備し、長時間のランニング時における疲労軽減に有効な着圧の程度を検討しました。その結果、極めて強い着圧を施したコンプレッションウェアを着用し、長時間のランニングを実施した場合では、疲労や筋肉の炎症反応の軽減が認められなかったのに対し、中程度の着圧を施したコンプレッションウェアを着用した際には、疲労と炎症反応の軽減効果が確認されました。製品が有する機能性を効果的に発揮させる“最適解”を科学的に導くことによって、研究は製品の価値を高めるだけでなく、アスリートのパフォーマンス向上にも大きく貢献することができます。科学の扉を開いた大学院生が、企業と共同で進める緻密に計画された研究に参画し、スポーツウェアの機能性や効果の実証、また新製品の開発に寄与するような実験に携わることは、大学院修了後に研究開発職を志す大学院生にとって、かけがえのない経験となるだけでなく、研究が社会とつながっていることを実感する機会にもなることでしよう。



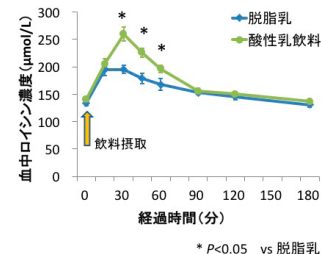
“ミルクプロテインのチカラ！”
に想いを込める
食品メーカーとの共同研究

**機能性食品の摂取と
運動の組み合わせが紡ぐ
中高年の健康増進と
介護予防**

藤田 聡 教授 | 専門分野：
運動生理・生化学



筋肉の合成には、たんぱく質の速やかな消化・吸収が重要な鍵を握ります。牛乳や乳製品に含まれる良質なたんぱく質である“ミルクプロテイン”が持つ可能性に想いを込める株式会社明治との共同研究で、脱脂乳で構成される従来のミルクプロテインの摂取後と、これに特殊技術を用いて酸性化させた新しいミルクプロテイン（酸性乳飲料）の摂取後における血中アミノ酸濃度、とりわけ、筋肉の合成に重要なアミノ酸であるロイシン濃度の変化を実験によって比較・検討しました。その結果、同量のミルクプロテインを摂取した場合、酸性乳飲料の方が血中アミノ酸濃度をより効果的に高めて、筋肉の合成を促すという可能性が示されました。このような新しいミルクプロテインの摂取は、機能性食品として筋肥大を追求するアスリートだけでなく、中高年の健康増進や介護予防にも役立つことが期待されます。加齢にともなう筋量の減少や筋機能の低下が招くサルコペニアは、肥満や転倒リスクの上昇を引き起こしますが、機能性食品の摂取だけでは、サルコペニアに対し、劇的な効果が望めません。ミルクプロテインの摂取とレジスタンス運動を組み合わせることが、筋肉の合成をより効果的に高めることから、新しいミルクプロテインと運動の組み合わせにも同様の効果が期待されます。機能性食品の摂取と運動の組み合わせによる新しい効果の探索は、現在、メディアからも注目されています。今後は、このような研究成果を“食”にかかわるメーカーや行政機関の関連部署に情報発信することによって、中高年の健康増進にかかわる製品の開発や政策の策定につなげられたらと思っています。



研究科長挨拶

**大学院への進学は
皆さんの可能性と
未来を拓きます**

立命館大学大学院
スポーツ健康科学研究科 研究科長

伊坂 忠夫 教授



大学院に進学すると、研究領域に特化した専門知識やスキルは獲得できるものの、視野が狭くなると勘違いされている面がありますが、そんなことは全くありません。大学院で獲得できる力量は、高度な専門性だけでなく、急激に変化する社会で生じる様々な現象を多面的な角度から適切に評価し、物事の本質を客観的かつ論理的に見極める力が身につきます。

そのため大学院修了者は、研究開発分野の仕事だけにとどまらず、企画、人材開発など多岐にわたる分野で活躍しています。そうして最終的には部局や組織を統轄する管理職に登用されることにつながるのは、幅広い視野を持ち、組織の成果や望ましい社会の姿を見極めることができるからに他なりません。また、本研究科で身につけた研究力と実践力（発信力）は、解決すべき課題を民間企業や行政機関の多様な取り組み、また地域社会の人々の生活と密接に結びつけ、企業の製品開発、行政システムへの貢献、イキイキと働ける職場環境の改善、地域のコミュニティと健康づくりなど、『未来を切り拓き、望ましい社会を築き上げること』に大きく貢献します。

立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科は、多方面から人々の健康と幸福に貢献することができる“人材”を育てています。そのため専門領域の先鋭化だけでなく、自然科学と人文・社会科学から成る文理融合の英知を武器に、「スポーツ健康科学」にかかわる様々な課題に対して最適解を見出し、それを遂行する力量を備えるための教育、研究を行います。博士課程前期課程では、アカデミックの世界に飛び込んだ皆さんの可能性に光を当て、同じ志を持つ院生や教職員と切磋琢磨しながら、その可能性を磨き上げて下さい。博士課程後期課程では、前期課程で見出した可能性を武器にして、新しい未来を拓く研究に邁進して下さい。

我々は、希望に燃えた皆さんが、確かなビジョンを持ってスポーツ健康科学の新しい扉を開くことを願っています。

《スポーツ健康科学研究科ビジョン》

ヒト・ひと・人を科学し プロフェッショナルとして 未来を拓く

史上最も成功した
アメリカのスポーツビジネス

**スポーツビジネスの
本質を理解するための
米国プロリーグとの
学術交流協定**

種子田 穰 教授 | 専門分野：
スポーツビジネス



“スポーツビジネス”という言葉に対して、多くの人々は、「スポーツを利用した金儲け」というポジティブではない印象を抱いているのではないのでしょうか。「みるスポーツ」として成功を遂げたNFL(National Football League)のケーススタディに10年以上携わり、コミッショナーやエグゼクティブに対して数多くのインタビューを実施してきました。このようなインタビューをつぶさに分析しながら、「スポーツビジネスとはいかなるものか？」という問いかけに対して、「スポーツがその純粋性を保ち続けると同時に、より多くの人々から受け入れられ、社会問題の解決や社会の発展に貢献し続けるシステムとその運用である」という1つの答えを導き出しました。Jリーグが開幕してから、わが国のプロスポーツでも「地域密着」という言葉をよく耳にするようになりましたが、アメリカのプロスポーツと比べれば、わが国のプロスポーツは、ビジネスとして十分な成功を収めているとはいえません。未成熟なわが国のスポーツビジネスの未来を切り拓く人材を育成するため、立命館大学は、NFL Internationalと学術交流協定を締結し、NFLやスポーツ各界から特別講師を招き、先進的なスポーツビジネスの事例やプロスポーツビジネスの構造を学ぶ機会を学生に提供し続けました。NFLでのインタビューに同行した大学院生の中には、プロスポーツビジネスについて研究を積み重ね、現在、大学教員になった人もいます。またわが国のスポーツビジネスを変革すべく、プロスポーツだけでなく、さまざまなスポーツ組織へと身を投じた人もいます。企業の存続が事業領域を通じた社会への貢献と、その見返りとなる利益の取得によってもたらされるように、スポーツビジネスの未来を担う大学院生には、経営学の知見を生かしながら、スポーツが組織や社会とどうつながるべきかについて考えてもらいたいものです。



**修了生インタビュー
奥野 彰文 さん**

スポーツ健康科学研究科博士課程前期課程
2015年度3月修了
(株式会社 バンダイ ホビー事業部 勤務)

本研究科は、研究力・指導力の高い先生方と最新鋭の設備が整い、レベルの高い研究ができる点が大きな魅力です。また、教員と学生の距離感がほど良く、自分の専門分野以外の先生方からも指導やアドバイスをいただけるので、考えてもいなかった気づきや新たな視点を得ることができました。

大学院時代は「心電図が計測可能なスマートウェア」の開発を行っていました。繊維メーカーやヘルスケア企業との共同研究で、何度も試作をして試行錯誤を重ねるプロセスが刺激的な経験となりました。研究を通して、人のことだけでなく電子回路の作製や計測機器の使用法、データの分析方法など、様々なことを学ぶことができました。現在は、プラモデルの企画開発業務を担当。まず人気のある商品が「なぜ人気があるのか」「ユーザーが

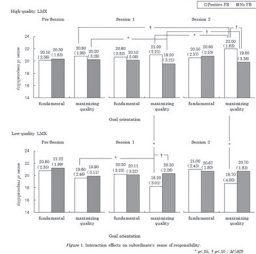
企業との共同研究からわかった
“イキイキとした”組織のつくり方

**組織変革を導く
“ビジネスフィロソフィ”と
モチベーションを高める
“褒め方・叱り方”とは？**

山浦 一保 教授 | 専門分野：
産業・組織心理学



企業であれ、スポーツチームであれ、組織のパフォーマンスを高めるためには、組織メンバーの協働と創造的な活動を促す必要があります。ただ、組織がどの方向に向かおうとしているのかを、組織のメンバーが理解していなければ、組織は路頭に迷います。企業でいえば、経営ビジョンや経営戦略、またスポーツチームでいえば、作戦や戦術がそれにあたるでしょう。京セラ株式会社、KDDI株式会社、日本航空株式会社の3社の協力を得て、“ビジネス・フィロソフィ(経営の哲学、理念や目標)”の浸透が組織のパフォーマンスを高めるのかという研究を進めました。その結果、ビジネス・フィロソフィの重要性は認識していても、組織成員が自社のフィロソフィと自分の生き方とのつながり、あるいは「仕事楽しい!」という仕事と自分とのつながりを感じたとき、人は組織の成果に貢献しようとする傾向が強く、積極的に活動するようになることがわかりました。また一般的には、「褒めること」が組織メンバーのモチベーションを促すと思われがちですが、西日本旅客鉄道株式会社の協力を得て実施した「リーダーの褒め方・叱り方」の研究では、リーダーがどのような言葉かけをしたのかということ以上に、鍵を握るのは、「リーダーとメンバーの信頼関係」が重要であることがわかりました。つまり、言葉かけの効果を十分引き出すためには、企業でいえば、上司と部下、スポーツチームでいえば、監督・コーチと選手といった両者間に信頼関係が構築されていなければならず、両者の関係性が悪いと、褒めたところで、モチベーションや責任感は逆に低下することがわかりました。このような研究成果が組織マネジメントの実務に活かされています。社会には、さまざまな組織が存在し、その組織は、感情を抱く人間によって構成されます。“イキイキとした”組織をつくるためには、このような人々の行動や心理の機微に目を向けることが大切です。



スポーツ健康科学研究科修了生就職先一覧（一部）

○トップアスリートを支える
国立スポーツ科学センター(JISS)

○医薬品で人々の健康を守る
大塚製薬(株)
クラシエ製薬(株)
ミナト医科学(株)

○健康的なライフスタイルをプロデュースする
(株)東急スポーツオアシス
(株)ルネサンス

○人々の暮らしに役立つ製品を生み出す
オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)
(株)バンダイ
山本光学(株)

○人々の質の高い生活をサポートする
アサヒビール(株)
キュービー(株)
(株)KDDI
ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
(株)ソフトウェア・サービス

○ビジネス・パフォーマンスの向上を提案する
アクセンチュア

○企業と人をつ結びつける
リクルートホールディングス
(株)インテリジェンス
(株)ウィルグループ

○地元経済の発展に寄与する
(株)西日本シティ銀行

○人々の暮らしの仕組みと豊かなまちを創る
地方公務員(上級職)

○未来を生み出す人を育てる
教員
(学)立命館

○世の中に起こる様々な事象を伝える
関西テレビ放送(株)

世界で勝負する英知を養う!



中山 雄介 さん

博士課程前期課程1回生
宝塚医療大学保健医療学部
柔道整復学科卒業

経験とエビデンスに基づいた
指導ができるスペシャリストを目指して

ニュージーランドの高校を卒業後、帰国してからは柔道整復師の資格を目指して宝塚医療大学で学びつつ、一方でボブスレーのオリンピック強化選手にも選ばれました。20歳代は競技者として歩んできたので今後は競技者をサポートする立場になりたい。そう思ったときに本研究科の「Mの力」というキャッチコピーに出会い、進学を決意しました。高度なスキルやプレゼンテーション能力など、指導者として社会人として不可欠な「M＝修士号の力」を身につけたいと考えました。これまでの競技経験と、大学院で学ぶエビデンスに基づいたトレーニング指導の知識を活かした専門家を目指しています。



仲山 七虹 さん

博士課程前期課程2回生
金城学院大学生生活環境学部
食環境栄養学科卒業

「スポーツ栄養」の知見を活かし
女性の美と健康をサポートしていきたい

中学からバトントワリングを始めて脂質制限などの食事管理を経験し、そこからスポーツと栄養の関係に興味を持ちました。大学では管理栄養士の勉強をし、そのときに「スポーツ栄養士」の存在を知り、その資格を目指して大学院で専門的に学びたいと考え、進学しました。本研究科では研究室に垣根がないため、他分野の先生方に気軽に相談ができ、研究を深めていけるのが魅力です。将来は、スポーツ栄養の知識を多くの人に発信していける開業栄養士になることが目標です。管理栄養士にスポーツ栄養というプラスαの強みを活かし、選手引退後も続く長い人生を見据えて女性の美と健康をサポートしていきたいと考えています。



笠井 信一 さん

博士課程後期課程2回生
立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科
博士課程前期課程修了
日本学術振興会特別研究員DC2(SR1)

低酸素トレーニングプログラムで
世界の頂点を目指すアスリートを支えたい

アスリートの競技力向上を狙いとした最先端のトレーニング手法である「低酸素トレーニング」。その研究に学部時代から取り組んできました。大学院では、スポーツ現場で応用可能な低酸素トレーニングプログラムの開発に向けて研究を進めており、その他にも陸上競技部短距離バートの選手に対して定期的なパフォーマンス測定を実施しています。そのなかで日本学術振興会の「特別研究員」(DC2)に採用されたことは大きな励みになっています。将来は、世界の頂点を目指すアスリートに対して、科学的エビデンスに基づいた合理的・効率的なトレーニングプログラムを提案できるスペシャリストになりたいと考えています。

Q&A

Q スポーツ経験者や理系出身者でなくても入学可能ですか？
A 所属・出身学部や、スポーツの競技経験は問いません。スポーツ健康科学分野における研究に強い意欲を有する方を募集します。ただし、後期課程では、スポーツ健康科学分野における研究実績や修士論文などの提出を要します。

Q 社会人対応のカリキュラムはありますか？
A 本研究科では、入学試験の区分に関係なく同一のカリキュラムで学習・研究を進めることとなります。授業は、基本的に月～金曜日の9:00～19:30(前期課程)、18:00～21:10(後期課程)の間で行います。

Q どのようなキャリア支援が受けられますか？
A 本学キャリアセンターと連携し、学生の社会観・職業観育成、社会における力量形成などを主眼においたキャリア支援を行っています。また、本学ではキャリア形成とキャリアパスの構築を支援するために、[大学院キャリアパス推進室](#) [検索](#) を設置しています。

Q 入学試験はいつ実施されますか？ 入学試験の方式と試験科目は何がありますか？
A 本研究科の入学時期は4月のみです。入学試験の日程および入試方式、試験科目などの詳細は、入学前年度の5月頃に [立命館大学大学院入試情報サイト](#) [検索](#) で公表される入学試験要項をご確認ください。

日本学術振興会特別研究員採用率(※1)

「日本学術振興会特別研究員」とは、国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度。本研究科院生は【2017年度55.5%】、【2016年度40.0%】と、他大学大学院同分野と比較しても極めて高い採用率を堅持しています！

大学院生の半数が「他大学」からの進学者

《本研究科院生の出身大学》
同志社大学・同志社女子大学・青山学院大学・関西大学・近畿大学
龍谷大学・東海大学・東洋大学・國學院大学・佛教大学・流通経済大学
京都教育大学・徳島大学・香川大学・大阪市立大学・兵庫県立大学
奈良女子大学・聖心女子大学・京都女子大学・武庫川女子大学
日本体育大学・中京大学・天理大学・びわこ成蹊スポーツ大学など。

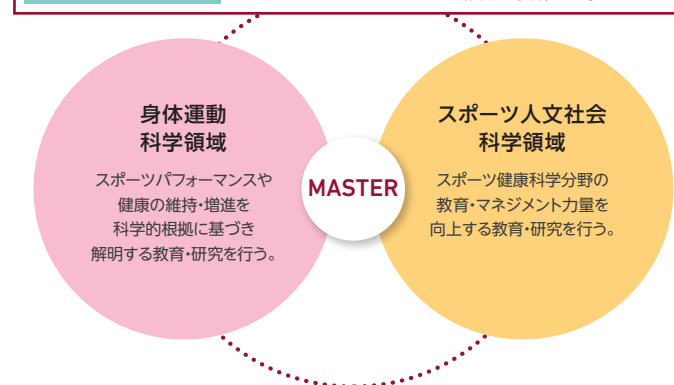
キャリアアップをねらう「社会人」大学院生

《本研究科院生の勤務先》
京都大学付属病院・武田病院グループ医仁会武田総合病院・
こたけ整形外科クリニック・(医)金沢整形外科クリニック・
吉田整形外科病院・(財)京都府体育協会・藍野大学・滋賀短期大学・
(学)立命館大学・京都医健専門学校・(学)福田学園 大阪リハビリテーション専門学校など。

「ヒト・ひと・人を科学する」ための学び

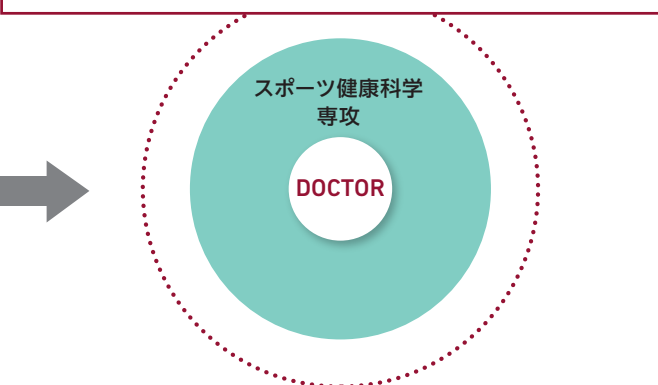
博士課程前期課程：1専攻・2領域

スポーツ健康科学 専攻 【人材育成目標】 スポーツ健康科学分野の専門的かつ高度な実践力と研究力をもつとともに、研究成果を社会に発信できる専門職業人ならびに研究者の養成を目的とします。



博士課程後期課程：1専攻

【人材育成目標】 スポーツ健康科学分野において先端的研究成果をあげ、その成果を実践に結びつけるとともに、研究プロジェクトなどにおいてリーダーシップを発揮することができる研究者の養成を目的とします。



文理融合を奏でるカリキュラム

	基礎科目	共通基礎科目	科学研究特論 リーダーシップ特論	研究調査特論 専門英語
前期課程		専門基礎科目	身体運動科学特論	スポーツ人文社会科学特論
		身体運動科学領域	スポーツトレーニング特論 健康増進科学特論 スポーツ工学特論	運動生理・生化学特論 バイオメカニクス特論 運動処方特論
	展開科目	スポーツ 人文社会科学領域	スポーツ教育学特論 コーチング行動学特論 スポーツマネジメント特論	スポーツ栄養教育学特論 スポーツマーケティング特論 スポーツビジネス特論
		特殊講義	スポーツ健康科学特論	
		キャリア形成科目	スポーツ健康科学キャリアプロジェクト インターンシップ	外国留学科目
後期課程	演習科目	演習	身体運動科学演習Ⅰ～Ⅲ	スポーツ人文社会科学演習Ⅰ～Ⅲ
		研究指導	研究指導Ⅰ	研究指導Ⅱ
		自由科目	単位互換履修科目	大学院コーオ演習
後期課程	講義科目	先端スポーツ健康科学特論Ⅰ・Ⅱ		
	実習科目	学外実習 1・2		
	演習科目	先端スポーツ健康科学特別研究Ⅰ～Ⅵ		

●：必修 ●：身体運動科学領域は必修 ●：スポーツ人文社会科学領域は必修

Pick Up!

スポーツ健康科学 キャリアプロジェクト

“文理融合”のスポーツ健康科学。とはいえ、専門領域の先鋭化を図ろうとする大学院では、異なる専門領域の魅力や特性を普段、なかなか感じることができません。この授業では、大学院修了後のキャリアを見据え、身体運動科学領域とスポーツ人文社会科学領域の異なる専門領域の大学院生が、助成金の申請書や事業企画書の作成といった共同プロジェクトを通じて、「スポーツ健康科学の英知を社会へ適用させるための方法」について学びます。

共同プロジェクトの一部をご覧になりたい方は、以下のサイトへアクセス！

[YouTube](#) [スポーツ健康科学キャリア形成プロ](#) [検索](#)

研究成果を上げて奨学金を獲得する!

Scholarship



奨学金・研究助成制度(※2018年度入学生適用予定)

大学院生の研究活動をバックアップするための多様な制度を設けています。

立命館大学大学院 1年次対象成績優秀者奨学金	博士課程前期課程（1年次）において、研究科が定めた入試方式による合格者のうち成績優秀者に給付します。
立命館大学大学院 2年次対象成績優秀者奨学金	博士課程前期課程（2年次）において、優秀な学修および研究を行っている者に給付します。
立命館大学大学院 博士課程後期課程研究奨励奨学金	在学する優秀な研究業績を有する者の授業料を奨励することにより、研究活動を奨励することを目的とした奨学金。S・A・B給付の三種の奨学金からなります。

その他の奨学金・支援制度

- 立命館大学大学院博士課程前期課程学生会補助金
- 立命館大学大学院博士課程前期課程研究実践活動補助金
- 立命館大学大学院博士課程後期課程学生会発表補助金
- 立命館大学大学院学生研究会活動支援制度(前期・後期課程)

博士課程前期課程は
2017年度から新学費が適用され、
過年度比**328,000円**(本学圏出身者比)が
減じられました。

※学費、奨学金、研究助成制度等、詳細については、
[立命館大学大学院入試情報サイト](#) [検索](#) より
「2018年4月入学立命館大学大学院入試要項(別冊)」を
ご覧ください。

あなたの輝く未来をサポートする！

Supervisor



身体運動科学領域

橋本 健志 教授

専門分野
運動生化学

研究テーマ
健康増進や競技力向上のための運動・栄養処方の開発

経歴
京都大学人間・環境学研究所博士課程後期課程修了。運動が全身の代謝制御機構に及ぼす影響と、その分子メカニズムについて探求。国際学会での受賞歴も多く、世界的に注目を浴びている。

“アクティブエイジング”を目指し
効果的な運動・栄養処方の開発に挑戦

塩澤 成弘 准教授

専門分野
生体工学、医用工学、スポーツ工学

研究テーマ
生体計測とその応用

経歴
立命館大学大学院理工学研究科博士課程後期課程修了。主な専門は生体計測。「生体信号計測方法及び装置」「心電図計測装置」「筋力計測方法及びそれに用いる装置」等の特許を申請している。

“スマートウェア”で計測したデータを
スポーツ・健康・医療分野に応用

超高齢化社会を迎えて、健康寿命の延伸が重要な課題となっています。そこで求められているのが、加齢に伴う肥満や糖尿病、筋肉減弱症、認知症などの諸問題を克服するための効果的な運動・栄養処方の開発です。私が取り組んでいるのは、「アンチエイジング」の一歩先にある「アクティブエイジング」。身体の老化を抑えるだけでなく、より健康的に過ごすための研究です。脂肪燃焼、筋肉増強、認知機能改善、膝関節痛の緩和といったテーマは高齢者だけでなく、一般的なアスリートも含め、多様な世代に貢献できる研究だと考えています。具体的には、どのような運動や栄養（機能性食品）が有効かを、からだ全体の生理的適応のみならず、細胞や組織レベルでの生化学的反応を解析することで検証しています。たとえば、緑茶やココアに含まれるポリフェノールの摂取と運動を組み合わせ、認知機能を高めるというように、栄養と運動両面での相乗効果を目指しています。最新設備が整った研究環境だけに、食品メーカーなど企業からの期待も高く、共同研究や研究助成の案件が多いのが特徴です。研究成果がサプリメントや飲料として商品化されることで社会的意義も実感できます。また企業の研究者や社会人学生など、多様な人と出会えるのも魅力です。異分野の人と触れ合い、刺激を受けながら自分のアイデアを発展させ、実験を積み重ねて、人々の健康とQOLの向上に役立つ研究成果を上げて欲しいと思います。

心拍数、呼吸、発汗、体温、関節の動きなど、複数の生体データを常時計測し、蓄積することができれば、アスリートから高齢者までのすべての人々の健康づくり、体力づくりに活用できます。そのための生体計測センサの開発が私の研究テーマの一つです。従来の測定法は、両面テープで皮膚に直接貼る、複数のデバイスを装着するなど、ある程度の負担を伴うものでしたが、スポーツや日常生活といったフィールドで、もっと気軽に使用できるものということ、服にセンサを仕込んだ“スマートウェア”を開発しています。医療機器メーカー、繊維メーカーなど、企業との共同研究で一部はすでに実用化されています。ふだん身につけるウェアをセンサ化することで自然な状態で計測が行え、データを解析すると心身の状態を知ることができます。たとえば、試合中の選手の疲労や緊張状態がわかったり、トレーニング効果を評価したり、一般の人の健康管理にも応用できます。さらに日々のデータを蓄積することで個々人の状態の予測が可能になると考えています。“予測”により今行ったトレーニングを続けることで数か月後にどのような効果を発揮するのか提示したり、利用者の体調や健康状態を予測して今何をすべきかアドバイスしたりするようなシステムが開発できればと思っています。研究では、生体計測に関連して電気電子回路の設計、プログラミング、機械工作なども行います。未知の分野でもまずは自分で調べて知識をつけ、開発に挑戦していく。そんなチャレンジ精神と開発力を涵養することが大切です。

数字で見る スポーツ健康科学研究科の 研究力



家光 素行 教授

専門分野
スポーツ生理・生化学

主な研究テーマ
遺伝情報から見た最適なトレーニング法を探索

伊坂 忠夫 教授

専門分野
スポーツバイオメカニクス、スポーツ科学

主な研究テーマ
スポーツ競技力ならびに日常活動を高めるための応用バイオメカニクス

金森 雅夫 教授

専門分野
予防医学、疫学・統計学、衛生・公衆衛生学

主な研究テーマ
スポーツ活動がヘルスプロモーションに及ぼす効果についての研究

後藤 一成 教授

専門分野
トレーニング科学

主な研究テーマ
スポーツ選手の競技力向上のための低酸素トレーニングや健康増進のためのトレーニングに関する研究

真田 樹義 教授

専門分野
運動処方、応用健康科学

主な研究テーマ
生活習慣病予防のためのテーラーメイド運動処方の研究

篠原 靖司 教授

専門分野
スポーツ医学、整形外科

主な研究テーマ
足：足関節障害(臨床研究)、腱：靭帯骨付着部(基礎研究)

田畑 泉 教授

専門分野
スポーツ健康科学

主な研究テーマ
スポーツの競技力向上のためのトレーニング法の開発、健康増進のための身体活動・運動に関する研究

長野 明記 教授

専門分野
バイオサイバネティクス、バイオメカニクス

主な研究テーマ
人体の運動制御のメカニズムに関する研究、運動機能向上のための工学的支援

藤田 聡 教授

専門分野
運動生理・生化学

主な研究テーマ
効率的な骨格筋肥大を目的とした運動と栄養摂取に関する研究

●：博士課程後期課程で研究指導担当可

スポーツ人文社会科学領域

海老 久美子 教授

専門分野
スポーツ栄養学

研究テーマ
様々な対象へのスポーツ栄養学の介入とその効果の検討

経歴
甲子園大学大学院博士課程後期課程栄養学研究科修了。管理栄養士としてさまざまな分野で活躍。北京オリンピックでは日本選手団への現地食環境調査、JOC強化指定選手の栄養サポートを担当。

アスリートから高齢者まで
「スポーツ栄養」で人々の食と健康を支える

応用栄養学としてのスポーツ栄養・食事学が私の専門です。アスリートにとって食事は体づくりや、競技特性に合わせた能力発揮、怪我や故障の予防といった意味を持っています。また、スポーツ栄養の対象はアスリートだけではなく、一般の高齢者や中高年層のスポーツ愛好者などさまざま。スポーツ栄養の知見を、社会の中の多様な人たちのQOLの向上につなげていくことを目指しています。同時に栄養学的な知見を活かしながら、「スポーツの食卓をおいしくする」ことが私の使命。おいしくないと消化吸収能力が落ちるということも証明されています。「おいしさ」には味だけではなく、安心安全、環境、地産地消……いろいろな要因が含まれています。このような総合的な「おいしさ」を追求していきたいと考えています。スポーツ栄養学を学ぶことで、日常的な食の楽しさを再発見し、自らの食生活についても改めて考え直すことができます。たとえば、アスリートのためのスイーツや高校生の野球食、地元ホテルと健康をテーマに共同開発したピッツフェメニュー、地元のテレビ局で食と健康をテーマに番組の企画……。社会と接点を持ちながら研究活動をすることで、大学院生は多様な視点を養うことができます。スポーツ栄養の専門家である「公認スポーツ栄養士」を目指す人はもちろん、スポーツ栄養の知見をもって、広く、人々の食と健康を支える人材を育てていきたいと思っています。

上田 憲嗣 准教授

専門分野
スポーツ教育学・体育科教育学・発育発達学

研究テーマ
子ども期の動作コーディネーション能力の向上に関する研究

経歴
鳴門教育大学大学院学校教育研究科修士課程修了。吉備国際大学准教授を経て、2015年度より本研究科に。共訳書に「初歩の動作学—トレーニング学」など。

実際の教育現場にふれながら
体育指導の実践力と人間性を養う

幼児期から児童期の運動発達の特徴である、神経系の運動能力（動作コーディネーション能力）の発達を促進するための基礎的な考え方から具体的方法、診断測定の方法などを中心に研究しています。その成果をとり入れた「コーディネーショントレーニング」は、児童期にしっかりと動きづくりをしていくことが将来のアスリートを育成する上でも重要ということから、いま注目されつつあります。研究では、子どもたちの体力向上を目指す全国の教育委員会・小中学校などと連携して実際の教育現場に入り、子どもたちにバランス運動やジグザグの走りなど、コントロール系を高める運動をしてもらい、運動能力の向上や改善効果を測っています。地元・草津市教育委員会との共同研究では、小学校14校の体育の授業前に5分間の短時間運動をとり入れたところ、全国平均どころか県平均をも下回っていた子どもたちの体力が向上。特に男子では、全国平均を上回るまでに改善されました。実際の教育現場で研究活動を進めることによって、学生は社会に貢献する意味を追求したり、人を育てる実践力を身につけることができます。教員、コーチなど指導者を目指す学生、とりわけ児童期に関わりたい人にとっては、学びや気づきが得られる研究環境といえるでしょう。単に指導ができる知識と指導法を獲得するだけでなく、スポーツという教材をもとに子どもたちと対等の関係で教育に取り組む、そんな人間性豊かな指導者を目指してほしいと思います。

社会に「価値」を発信する スポーツ健康科学研究科（一部）

テレビ	NHK「ガッテン」 つら〜い冷え症が改善！ 血管若返り術 家光素行 教授 2017.02.08放送
	朝日放送「キャスト」 スポーツ選手が体/バシ/ン叩くのナゼ？—男子陸上競技部長野明紀 教授 2016.09.29放送
	BS11「ニュース・経済 報道ライブInSideOUT」 最新スポーツ科学で健康長寿 伊坂忠夫 教授 2016.08.16放送
ラジオ	J-WAVE「POP UP! DHC」 超回復 後藤一成 教授 2016.06.06放送
新聞	日本経済新聞（夕刊） 短距離走の「ヨ〜イ」の号砲、間隔が長いほど好スタート 大塚光雄 助教 2017.5.18掲載
	毎日新聞（朝刊） 中高生のアスリートの食を考えるシンポジウム 海老久美子 教授 2017.1.23掲載
	朝日新聞（朝刊） Jリーグで進む競技場のIT化 種子田穰 教授 2016.11.26掲載

大友 智 教授

専門分野
スポーツ教育学・体育科教育学

主な研究テーマ
スポーツ指導場面・体育学習場面における学習者の行動研究

岡本 直輝 教授

専門分野
コーチング

主な研究テーマ
競技力向上に関するコーチング研究

佐久間 春夫 教授

専門分野
スポーツ心理学、精神生理学、健康心理学、スポーツ統計

主な研究テーマ
運動・スポーツの心理的側面に関する科学的根拠を探索

種子田 穰 教授

専門分野
スポーツビジネス

主な研究テーマ
プロスポーツビジネスモデルの研究

長積 仁 教授

専門分野
スポーツマネジメント

主な研究テーマ
スポーツ振興とまちづくり

山浦 一保 教授

専門分野
産業・組織心理学

主な研究テーマ
チームのより良い人間関係の形成に関する心理学的研究

小沢 道紀 准教授

専門分野
経営学（マーケティング）

主な研究テーマ
インクルーシブ体育のあり方、指導者育成に関する研究

永浜 明子 准教授

専門分野
学校保健学、アダプテッド・スポーツ

主な研究テーマ
インクルーシブ体育のあり方、指導者育成に関する研究

祐伯 敦史 准教授

専門分野
神経言語学

主な研究テーマ
言語理解や習得のプロセスについての研究

●：博士課程後期課程で研究指導担当可

◎：博士課程前期課程の英語関連科目のみ担当

2018年度入学試験から **M** の入試が変わります!

博士課程前期課程

学内進学入学試験

- 出願資格（成績要件）に「スポーツ健康科学検定」のスコア基準も導入されます（対象は本学部生のみ）。

※よって、出願（成績要件）として「GPA」または「スポーツ健康科学検定」のいずれかの基準を満たすことが必要です。

- 選考方法・試験科目が縮小され、筆記試験を廃止し、書類選考と面接試験のみとなります。



一般入学試験

- 「論述」、「英語」を廃止し、スポーツ健康科学分野の基礎力・専門力を問う「基礎問題」、「専門問題」へとリニューアル。

（※英語は語学能力証明書の提出が必要です）。



基礎問題はスポーツ健康科学に関する基礎的素養を問う。
専門問題は本学スポーツ健康科学部基盤科目の必修科目より、1問選択。
（※基盤科目は「スポーツ健康科学」「生涯スポーツ論」「基礎機能解剖論」「コーチング論」。詳細はWeb上で本学シラバス参照。）

●各選考・試験の配点



社会人入学試験、外国人留学生入学試験

- 「論述」を廃止し、スポーツ健康科学分野の基礎力・専門力を問う「基礎問題」、「専門問題」へとリニューアル。

より受験対策がしやすくなります



基礎問題はスポーツ健康科学に関する基礎的素養を問う。
専門問題は本学スポーツ健康科学部基盤科目の必修科目より、1問選択。
（※基盤科目は「スポーツ健康科学」「生涯スポーツ論」「基礎機能解剖論」「コーチング論」。詳細はWeb上で本学シラバス参照。）

●各選考・試験の配点



立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科 2018年度入学試験日程

入学定員

博士課程前期課程 25名／博士課程後期課程 8名

※入学定員は、各課程の全入試方式の募集人数を合わせたものです。

＜博士課程前期課程＞

専攻	入試方式	実施年月	出願期間	試験日	合格発表日
スポーツ健康科学	学内進学	2017年 7月	6/2(金)～ 6/16(金)	7/8(土)	7/21(金)
		2017年 11月	10/6(金)～ 10/20(金)	11/11(土)	11/24(金)
	一般	2017年 11月	10/6(金)～ 10/20(金)	11/11(土)	11/24(金)
		2018年 2月	1/5(金)～ 1/19(金)	2/10(土)	2/23(金)
	社会人	2017年 11月	10/6(金)～ 10/20(金)	11/11(土)	11/24(金)
		2018年 2月	1/5(金)～ 1/19(金)	2/10(土)	2/23(金)
	外国人留学生	2017年 11月	10/6(金)～ 10/20(金)	11/11(土)	11/24(金)
		2018年 2月	1/5(金)～ 1/19(金)	2/10(土)	2/23(金)

＜博士課程後期課程＞

専攻	入試方式	実施年月	出願期間	試験日	合格発表日
スポーツ健康科学	学内進学	2017年 11月	10/6(金)～ 10/20(金)	11/11(土)	11/24(金)
	一般	2017年 11月	10/6(金)～ 10/20(金)	11/11(土)	11/24(金)
		2018年 2月	1/5(金)～ 1/19(金)	2/10(土)	2/23(金)
	社会人	2017年 11月	10/6(金)～ 10/20(金)	11/11(土)	11/24(金)
		2018年 2月	1/5(金)～ 1/19(金)	2/10(土)	2/23(金)



お問い合わせ先

スポーツ健康科学部事務室

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1
びわこ・くさつキャンパス インテグレーションコア2階
TEL. 077-561-3760（直通）

事務室窓口時間

（電話および窓口での質問・相談は下記の時間帯をお願いします。）
土日祝を除く10:00～11:30、12:30～17:00（開講期間外は13:00～17:00）
※一斉休業期間中は、電話や窓口での質問、相談は受け付けられません。

入学試験・研究科の詳細はホームページまで

立命館大学大学院入試情報サイト <http://www.ritsumeai.ac.jp/gr/>

スポーツ健康科学研究科ホームページ <http://www.ritsumeai.ac.jp/gs-shs/>

スポーツ健康科学部・同研究科ブログ「あいコアの星」 <http://www.ritsumeai.ac.jp/shs/blog/>



+R 未来を生みだす人になる。

立命館大学